

尊厳か冒とくか

脳腫瘍で余命半年と宣告された米国人女性、ブリタニー・メイナードさん(29)が、安楽死を法律で認める西部オレゴン州で死亡予告日の今日1日に生涯を閉じた。日本では、医師が介入する安楽死は法律で認められていないが、米国では3州で、法制化されている。末期患者の心理や最期までの暮らしをインターネット上で情報発信した試みは、米国でも波紋を広げ、安楽死を巡る論争に一石を投じた。

【ロサンゼルス堀山明子】

「本当は死にたくない。2年前に結婚し、子供を奇跡的に治るなら子供もほしい。でも夫の名前さえ思い出せない時があるの」。亡くなる半月前のテレビ番組でメイナードさんは、こう語った。脳腫瘍が激しい痛みや記憶障害を引き起こし、「自分をコントロールできなくなるのが一番怖い」と、苦渋の決断の理由を涙ながらに話した。

予告された安楽死の波紋

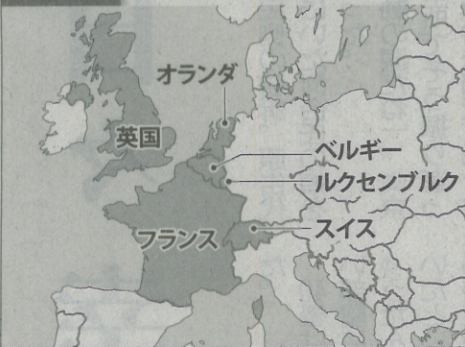


「私の死の選択」と題するブリタニー・メイナードさんのインタビュー記事(10月27日号)は、芸能雑誌「ピープル」の表紙(左)を飾るほど話題に。死亡11日前の10月21日に米西部アリゾナ州のグランドキャニオン旅行を楽しむメイナードさんの写真も掲載した。

「残された日を美しく過ごしたい」と語るメイナードさんは29歳という若さで、死亡予告日を宣言したうえで、亡くなる前に動画を撮影し、死と向き合う姿を発信したためだ。

米29歳女性

Table with 2 columns: Country and Status of Euthanasia. Rows include USA (Oregon, Washington, Colorado), Netherlands, Belgium, Luxembourg, UK, France, and Switzerland.



ドさんは、最期までの幸せな日々を撮った動画を投稿した。映画の一場面のように美しいワイナリーでの結婚式の様子を撮った映像は、同世代の若者層にも反響を呼び、再生回数は1100万回を超えた。

動画再生1100万回／自殺促す風潮懸念

も選択肢」と社会が背中を押したらどうなるのか」と、安楽死制度が生かされる価値を失わせる危険性を指摘した。「人生の最後の一滴まで振り絞って生きて」と呼びかけ、40万回近く再生された。

安楽死を巡る議論は90年の連邦最高裁判決で、患者による延命治療拒否が憲法上保護された「自己決定権」と認められたことを機に、活発化した。91年には延命治療を拒否する手続きを定めた連邦法「患者の自己決定権法」が施行され、延命治療拒否は「自然死」として社会的に受け入れられた。ただ、医師が介入した安楽死まで認める法制化については賛否が分かれる。

これまで全米25州で法案が上程されたが、法制化は3州だけだ。薬物による安楽死は生命倫理や「神に授けられた命を冒とくする」とカトリックを中心とする宗教団体の反対が大きい。さらに、自立できない障害者や高齢者を末期患者と同一視して、死の選択に結びつける差別につながる恐れも指摘されている。

日本、法制化に強い反対

日本では終末期の患者の選択に関する法律がなく、メイナードさんのような死の選択は認められていない。超党派の議員連盟が「終末期の医療における患者の意思の尊重に関する法律案」(仮称)を2012年にまとめたが、死生観についてはさまざまな意見があり、提出の見通しは立っていない。

1991年に東海大医学部付属病院(神奈川県)で起きた安楽死事件では、未治療をせず、自然な死を迎えることを選択した患者が、その中で「終末期の患者が自分の意思によって延命治療を拒否し、自然な死を迎える」として議員連盟は、指針

カリフォルニア州サンフランシスコ郊外に住む、末期肺がんが進行してしまっているジェニファー・グラスさん(51)は、カリフォルニア州での安楽死法の成立を訴え、メイナードさんと同様に、実名でメディアの取材に応じるなどの活動を行っている。自宅で毎日新聞の取材に応じたグラスさんは「私が生きている数年内に(死ぬための)選択肢を広げたい」と語った。

末期がん女性「選択肢を」

グラスさんが「5年後の生存確率は5%」と宣告されたのは昨年1月。4カ月前に結婚したばかりで、新婚生活のために家の改装を終えた直後だった。放射線治療と化学療法で、現在はがんの進行が止まり、自宅療養を続けている。カリフォルニア州ではオレゴン州と同様の安楽死法案が1992年に住民投票にかけられたが否決。その後、州議会でも回法案が上程されたが、賛否が分かれ成立していない。メイナードさんは元々、カリフォルニア州に住んでいたが、法が整備されているオレゴン州に夫や両親とともに引っ越して、安楽死の環境を整えた。グラスさんは「私はこの家を離れたくない。心安らかに最期の時を過ごすには、住み慣れた家や環境が大切」と語る。



自宅で取材に応じるジェニファー・グラスさん。現在は容体が安定し、自宅で療養を続けている。米カリフォルニア州サンフランシスコ郊外で10日、堀山明子撮影

【下桐実雅子】